

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K10430

研究課題名(和文) 子ども期の災害経験後の心的外傷後成長(PTG)につながる要因の二国間比較

研究課題名(英文) International comparison of factors associated with posttraumatic growth (PTG) after childhood disaster exposure

研究代表者

本多 由起子(Honda, Yukiko)

京都大学・医学研究科・特定助教

研究者番号：90782219

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、2015年のネパール地震、2016年の熊本地震を子ども時代に経験した二カ国の若者を対象として、両国における被災後の心的外傷後成長：Posttraumatic Growth (PTG)の実態を明らかにすることを目的とした。大学生等を対象にPTGの国際尺度で定められた25項目の質問を軸にインタビュー調査を行い、特に高いスコアを回答した項目を中心に、具体的な語りを聞き取りした結果、回答得点が高かった上位の5項目は両国でほぼ異なっていること、また共通項目は自分の命の大切さに対する実感や感謝を問う項目だったことが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでの解析で、ネパールと日本で子ども時代に被災した若者のPTGの実態には相違点・共通点の両方が存在することが、具体的なエピソードと共に浮き彫りとなった。さらに分析を継続させることで、自然災害に見舞われた子どもが経験する可能性がある心理的变化について、その文化的・社会的背景との関連を考慮した理解が深まることが、本成果の学術的意義である。また自然災害に関する被災者支援という見地から、支援において国際的な地域差を考慮すべき点、地域を問わず共通する点が明らかになったことは、国境を超えて活動する保健医療従事者・政策立案者にとって相互参照可能な資料の獲得であり、本研究成果の社会的な意義である。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to identify the reality of Posttraumatic Growth (PTG) after disasters in both countries, targeting young people from the two countries who experienced the 2015 Nepal earthquake or the 2016 Kumamoto earthquake as children. The student interview survey focused on 25 questions defined in the international scale of PTG, and specific narratives were interviewed, focusing on the items with particularly high scores. The top five items with the highest scores were different in the two countries, and the common item was the question about 'greater appreciation of the value of one's life'.

研究分野：社会疫学

キーワード：Posttraumatic Growth 心的外傷後成長 メンタルヘルス 自然災害 レジリエンス 子ども 社会疫学 国際保健

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景：自然災害が子どものメンタルヘルスに与える影響については、主に PTSD・抑うつ等の Negative な側面に焦点が当てられることが多い (1-3)。一方でこうした苛烈な体験による苦悩を経験しながらも、それを乗り越え人格的成長を遂げる人の存在にも注目がなされ、心的外傷後成長：Posttraumatic Growth (PTG) (4) という心理学概念として捉える研究もまた世界的に進められている (5-9)。アジア圏内において自然災害は頻発しており、2015.4.25 のネパール地震、また我が国においては 2011.3.11 の東日本大震災に続き 2016.4.14 に熊本地震が発生し、数年が経過した今なおそれぞれの地域で人々が受け続けている影響がある。こうした背景の中で、ネパール・日本両国の PTG の現状を明らかにすること、PTG につながる要因やエピソードについて、特に文化的・社会的背景が異なる 2 つの国における相違点・共通点に着目して分析することは、子ども期に被災した若者のメンタルヘルス支援に有益でありグローバルな社会的支援構築のために重要である。

2. 研究の目的：本研究は、ネパール・日本で子ども期に大規模地震に被災した大学生を対象に PTG 関連尺度で用いられている質問項目を基盤とした半構造化面接による質的調査を実施し、ネパール・日本における PTG の実態、そこに繋がったと自覚されるエピソードの語りを収集する。得られた結果について文化的・社会的要因を考慮しながら両国の相違点・共通点を比較検討することで、相互参照可能な情報を取得することを目的とする。

3. 研究の方法：ネパールと日本の子ども期に大規模地震に被災した大学生を対象に、PTG の実態を明らかにするため、質的調査を実施した。対象者が所属する大学機関や自宅など本人が希望する場所あるいはオンラインにて半構造化インタビューを行った。インタビューガイドに沿って被災の状況や当時の経験に関する語りを収集した。PTG の実態および関連する要因について PTG 国際尺度である PTGI-X の質問項目を中心に、共通点・相違点について内容分析を行った。

【対象者・サンプリング・セッティング】

(対象者) 2015 年 4 月のネパール地震、2016 年 4 月の熊本地震地震のいずれかを体験し、研究に対する同意が得られた大学生等 (大学院等を含む)

(サンプリング) COVID-19 の流行状況により参加協力者が集まりにくい事が想定されたため、合目的的サンプリング、中でもスノーボールサンプリングを主として採用した。

(セッティング) 遠隔または対面で半構造化面接を実施した。実施場所は日本・ネパールともに対象者が所属する大学内のプライバシーに十分配慮できる会議スペース (所属研究室の会議室、ラウンジ等) または対象者が希望する場所を使用した。

【データ収集方法・分析の概要】

インタビュー実施前に、基本属性等に関する面接前アンケートを行った。インタビュー、面接前アンケート等の所要時間は約 60～90 分前後を予定し、対面あるいはオンライン会議システム（Zoom）を用いたりリモートインタビューとした。インタビューは、熊本調査は全て主研究者が行い、ネパール調査はトレーニングを受けた現地カウンターパートの担当者が実施した。PTG 国際尺度 Posttraumatic Growth Inventory-Expanded (PTGI-X) の 25 の質問項目内容に沿った質問を行い、対象者が特に高いスコアを回答した質問項目を中心に掘り下げ質問によりさらに具体的なエピソード等を収集した。PTGI スコアの平均値が高かった上位項目に着目し対応する両国のナラティブデータについて内容分析を行った。

【倫理的配慮】本研究は長崎大学大学院医歯薬学総合研究科（医学系）倫理委員会の承認（21082704）を得て実施した。

4 . 研究成果:ネパールの対象者（n=20）と日本の対象者（n=14）は、年齢平均(標準偏差)が 25.4(5.1)と 21.7（1.1）で日本がやや若く、性別は、ネパールは女性が多く（20.0% vs. 80.0%）、日本は男性（64.3% vs. 35.7%）が多かった。（表 1）

表 1. 参加者の属性

Variables	Nepal (n=20)		Japan(n=14)	
	Mean or N	SD or (%)	Mean or N	SD or (%)
Sex				
Male	4	(20.0)	9	(64.3)
Female	16	(80.0)	5	(35.7)
Age	25.4	5.1	21.7	1.1
Education				
Undergraduate	11	(55.0)	10	(71.4)
Masters	8	(40.0)	2	(14.3)
Doctoral	1	(5.0)	2	(14.3)
Religion				
Hindu	17	(85.0)	0	(0.0)
Buddhist	1	(5.0)	1	(7.1)
Christian	1	(5.0)	0	(0.0)
Others	1	(5.0)	0	(0.0)
None in particular	0	(0.0)	13	(92.9)
Number of cohabiting	3.0	2.4	2.3	1.4
Houses damaged by				
Yes	8	(40.0)	5	(35.7)
No	12	(60.0)	9	(64.3)

PTGI-X, PTGI-X-J の各質問のうち、得点が高い上位 5 項目は日本とネパールで大きく異なり、ネパール（Q1, Q13, Q2, Q6, Q20）日本（Q3, Q2, Q21, Q7, Q15, Q24）で、唯一共通する質問項目は Q2: Greater appreciation for value of own life であった。（表 2）

表 2. 二カ国の対象者における PTGI-X 各質問項目回答

		Nepal(n=20)		Japan(n=14)	
		Mean	SD	Mean	SD
<i>Q. PTGI Domains: Relating to Others</i>					
21	Better accept needing others	3.4	1.4	3.4*	1.2
20	Learned how wonderful people are	3.5*	1.3	2.9	1.5
16	More effort into my relationships	2.6	1.5	2.2	1.5
15	More compassion for others	3.1	1.3	3.1*	1.4
9	More willing to express my emotions	1.8	1.2	1.7	1.1
8	Greater sense of closeness with others	3.2	1.7	3.0	1.3
6	Can count on people	3.6*	1.3	2.9	1.2
<i>PTGI Domains: New Possibilities</i>					
17	Try to change things	3.0	1.6	2.5	1.8
14	New opportunities	1.7	1.2	3.0	1.8
11	Do better things with my life	3.2	1.2	2.8	1.6
7	New path for life	2.5	1.8	3.2*	1.6
3	Developed new interests	2.5	1.4	3.6*	1.5
<i>PTGI Domains: Personal Strength</i>					
19	Stronger than I thought I was	2.9	1.4	2.4	1.2
12	Better able to accept	2.9	1.4	2.4	1.5
10	I can handle difficulties	3.0	1.1	2.4	1.5
4	Greater self-reliance	2.7	1.3	1.9	1.6
<i>PTGI Domains: Spiritual and Existential Change.</i>					
22	Greater sense of harmony with world	3.0	1.6	1.6	1.6
23	More connected with existence	2.6	1.3	3.0	1.2
24	Better able to face questions about life/death	3.1	1.1	3.1*	1.8
25	Greater clarity about life's meaning	3.3	1.0	1.6	1.5
18	Stronger religious faith	2.5	1.8	0.6	1.2
<i>PTGI Domains: Appreciation of Life</i>					
5	Better understanding of spiritual	2.8	1.8	1.4	1.4
13	Better appreciate each day	3.8*	1.2	2.9	1.4
2	Greater appreciation for value of own life	3.6*	1.3	3.5*	1.5
1	Changed my priorities	3.8*	1.2	1.1	1.0

Note: PTGI Domain および質問項目は英語論文より引用 (Tedeschi, 2017)

*: 平均点の上位 5 項目

表 3. ネパール・日本の対象者の語り例（ヴァリエーション）

	Question No.2: Greater appreciation for value of own life
Nepal	・ <i>We have only one life and what happens next nobody knows. I have plans to do many things but I haven't lived my life as I wanted. (中略) In 7th grade if I had lost my life then I would never get chance to see the world like this.</i>
Japan	・ <i>なんか普通に生活してて、その死ぬんじゃないかなとか、危険だなんて思うことって本当に限られていると思うし、自分はなかったんですね。地震に被災するまで。(中略)大学の建物のガラスがバリバリバリバリってなんかすごく怖かったの覚えてて。こうやって人って死ぬんだなってなんか正直思っちゃって、</i>

両国の対象者において、日常生活で自覚することのなかった「死」について初めて実感を伴って直面した経験が語られた。こうした共通点/相違点の内容分析とともに、テーマ分析によるデータ解析も現在進行中であり、論文化し公表することを予定している。

【参考文献】

1. Thienkrua W, Cardozo BL, Chakkraband ML, Guadamuz TE, Pengjuntr W, Tantipiwatanaskul P, et al. Symptoms of posttraumatic stress disorder and depression among children in tsunami-affected areas in southern Thailand. *Jama*. 2006;296(5):549-59.
2. van Griensven F, Chakkraband ML, Thienkrua W, Pengjuntr W, Lopes Cardozo B, Tantipiwatanaskul P, et al. Mental health problems among adults in tsunami-affected areas in southern Thailand. *Jama*. 2006;296(5):537-48.
3. Fujiwara T, Yagi J, Homma H, Mashiko H, Nagao K, Okuyama M. Clinically significant behavior problems among young children 2 years after the Great East Japan Earthquake. *PloS one*. 2014;9(10):e109342.
4. Tedeschi RG, Calhoun LG. The Posttraumatic Growth Inventory: measuring the positive legacy of trauma. *Journal of traumatic stress*. 1996;9(3):455-71.
5. Siqueland J, Hafstad GS, Tedeschi RG. Posttraumatic Growth in Parents After a Natural Disaster. *Journal of Loss & Trauma*. 2012;17(6):536-44.
6. Siqueland J, Nygaard E, Hussain A, Tedeschi RG, Heir T. Posttraumatic growth, depression and posttraumatic stress in relation to quality of life in tsunami survivors: a longitudinal study. *Health and quality of life outcomes*. 2015;13:18.
7. Taku K, Calhoun LG, Tedeschi RG, Gil-Rivas V, Kilmer RP, Cann A. Examining posttraumatic growth among Japanese university students. *Anxiety, stress, and coping*. 2007;20(4):353-67.
8. Lau JT, Yeung NC, Yu X, Zhang J, Mak WW, Lui WW, et al. Psychometric properties of the Chinese version of the Revised Posttraumatic Growth Inventory for Children (PTGI-C-R). *Asia-Pacific journal of public health / Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health*. 2015;27(2):Np1310-20.
9. Castro MC, Delgado JB, Alvarado ER, Rovira DP. Spanish Adaptation and Validation of the Posttraumatic Growth Inventory-Short Form. *Violence and victims*. 2015;30(5):756-69.
10. Tedeschi RG, Cann A, Taku K, Senol-Durak E, Calhoun LG. The Posttraumatic Growth Inventory: A Revision Integrating Existential and Spiritual Change. *Journal of traumatic stress*. 2017.
11. Yoshida H, Kobayashi N, Honda N, Matsuoka H, Yamaguchi T, Homma H, et al. Posttraumatic growth of children affected by the Great East Japan Earthquake and their attitudes to memorial services and media coverage. *Psychiatry and clinical neurosciences*. 2016.
12. 開浩一. Posttraumatic Growth (外傷後成長) を促すものは何か: 変容過程に視点を置いて. 長崎ウエスレヤン大学現代社会学部紀要. 2006;4(1):75-84.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	木原 正博 (Kihara Masahiro) (10127516)	京都大学・医学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	木原 雅子 (Kihara Masako) (10325657)	京都大学・医学研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	竹内 裕希子 (Takeuchi Yukiko) (40447941)	熊本大学・大学院先端科学研究部(工)・教授 (17401)	
研究分担者	古澤 拓郎 (Furusawa Takuro) (50422457)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授 (14301)	
研究分担者	叶谷 由佳 (Kanoya Yuka) (80313253)	横浜市立大学・医学部・教授 (22701)	
研究分担者	柏木 聖代 (Kashiwagi Masayo) (80328088)	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・教授 (12602)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	リュイテル ナゲンドラ (Luitel Nagendra Prasad)		
研究協力者	オジャ サロジ (Ojha Saroj Prasad)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
ネパール	Tribhuvan University	PRIME Nepal	